

指定管理者評価シート

事業名	札幌市民交流プラザ運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	----------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市民交流プラザ	所在地	中央区北1条西1丁目
開設時期	平成30年10月	延床面積	37,332㎡
目的	文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の質の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与することを目的とする。		
事業概要	札幌文化芸術劇場等、施設の管理運営。文化芸術振興のための主催事業の実施。		
主要施設	札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、札幌市図書情報館(※教育委員会の直営)		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
募集方法	非公募 札幌市民交流プラザは様々な文化芸術に触れる機会の提供やアートマネジメント人材の育成などを担う施設であり、また、本市の文化芸術施設間の連携の中心拠点となり、幅広い分野の事業展開を行う札幌文化芸術交流センターは、文化芸術施策の一体的な推進を図るため、市内各文化芸術施設との一体的管理が必要である。また、スタッフの人材育成については、長期的に行っていく必要がある。さらに、設置目的に沿った運営を行っていくためには、札幌市による指定管理者への継続的かつ積極的な関与が必要であることから、非公募とした。		
指定単位	施設数：1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数：1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 令和2年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>▼ 「文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与する」というプラザの設置目的に基づき、以下の6つの基本方針を策定し、当財団だからこそ実現可能な主催事業や当財団が管理運営を行う他施設との連携事業など、市民の多様なニーズを捉えたオリジナリティに溢れた施設運営に取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 良質かつ多彩な文化芸術の提供と北海道発の文化芸術の創造 ② 文化芸術の水準を高める拠点としての役割 ③ 今後の文化芸術を担い、支える人々の育成 ④ すべての人々が文化芸術を享受できる開かれた施設 ⑤ あらゆる人々がつながり、交流するにぎわいの空間 ⑥ 安全・安心・快適な施設環境の提供 	<p>第2期指定管理期間の市民交流プラザの管理・運営を実施するに当たり、札幌市民交流プラザの設置目的を実現していくための基本指針とすることができた。</p>	<p>A B C D</p> <p>6つの基本方針に基づき、人々に広く開かれた文化芸術施設として、平等性・公平性を重視し、施設利用者への丁寧な対応、施設の利便性向上に努めている。</p> <p>利用者や運営協議会で情報共有を行っており、市民サービスや管理水準の維持向上に努めている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として定期的な換気を行いつつ、省エネルギーの促進や環境に配慮した取組を行っている。</p>
	<p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>▼ 札幌市の公の施設であることに鑑み、公平性を重視した運営を行うため以下の方針を策定し、実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 公開抽選による施設申込 利用月13か月前の一斉受付による申込受付 ② 随時予約による施設申込 一斉受付終了後、空き施設を先着順で受付 ③ 優先受付による施設申込 長期の準備が必要かつ大規模な事業に限り、24か月前の受付 <p>多岐にわたる分野に知識を有する専任職(マーケティングディレクター)を中心とし、受付の可否について慎重な審査を行った。</p> <p>▼ 特定団体の専有を防止し、多くの利用者への平等な利用を実現するため、連続利用を原則7日以内に制限している。</p>	<p>施設の空き状況について、電話での問い合わせ対応やホームページで常時確認可能な状態とすることで、平等かつ公平な利用機会を広く市民に提供した。</p> <p>令和2年度は施設利用の取りやめが相次いだことから、取消・変更についてはできる限り速やかに手続きを行い、迅速な還付処理を心掛けたほか、空いた施設を新たな利用者が利用しやすいよう努めた。</p>	<p>以上のとおり、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。</p>

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

▼「札幌市環境基本計画」に順じ、環境保護、コストの縮減、職員への環境意識の徹底に努めた。具体的には、新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴う休館期間中及び施設利用が極端に少ない期間においては、一時的に温水の供給を停止させ、照明(貸館時間帯を除く)に関しては、設備員との打合せを密にし、施設予約状況を踏まえて徹底的に節電に努めた。また、感染症対策として、定期的な換気のために空調の間欠運転を実施する等、省エネルギーに配慮しながら、室内の温湿度を一定程度保つよう、施設利用に際して適切な環境の整備に努めた。

▼札幌市環境マネジメントシステムに則り、エネルギー等の使用実績を集計し、省エネルギーの推進及び温室効果ガスの排出抑制に取り組んだ。

施設の貸出状況に応じて都度適切な対応を検討した結果、エネルギーの消費を最小限に抑えることができた。引き続き、職員の意識を高め、省エネルギーの促進に努めたい。

エネルギー等の使用実績を基に空調の運転時間を短縮したほか、可能な範囲で温水の供給を停止する等省エネルギーの推進及び温室効果ガスの排出を抑制することができた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼ 市民交流プラザ事業部長(館長)を施設の統括責任者として配置している。

また、各課で行う事業特性や業務量を考慮し、適切な人員配置・責任体制を敷くよう努めた。

業務の実態に応じた人員配置や増員を行い、組織体制の適正化に努めた。

▼ 基礎的・専門的知識の向上のため、以下の職員研修を実施した。

- ・4月 新規採用職員研修
個人情報保護・セクシャルハラスメント防止研修
- ・10月 貸館対応研修(管理課管理係)
女性のための年金&ライフプランセミナー
- ・11月 普通応急手当講習
パソコン研修
- ・12月 バリアフリー研修(管理課)
- ・1月 メンタルヘルス研修
- ・12～1月 コンプライアンス研修
- ・12～1月 新規採用職員研修 接遇研修
- ・12～1月 管理職マネジメント研修
- ・2月 新任係長職研修

また、各従事者の能力向上および職務環境整備のために多様な研修を実施し、施設の安定的な運営体制づくりに資することができた。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼ 財団管理の各施設をネットワークで結び、共用のグループウェアソフトを活用することで、迅速かつ効率的な情報共有・意思疎通を図っている。

また、財団共用の財務・会計システム利用により、予算執行状況の把握・各種伝票の起票を効率的に行っている。

▼ 事業部内では職員だけではなく、清掃・警備・設備・舞台技術等の常駐委託業者とも上記グループウェアソフトを活用し、情報共有・連絡伝達を行っている。

情報共有の媒体を一元化することで、情報の分散を防ぎ、利用者・来館者への正確かつスピーディーな対応に繋がった。

▼ 各常駐委託業者と日常的に綿密な連絡体制を敷くことで、業務中に発生した問題等に対し速やかに報告を受け、対処を行った。

また、館内で実施する新型コロナウイルス感染対策への取組についてもこまめな情報共有を行い、徹底した感染防止体制を構築した。

日常的な情報共有を迅速・正確に行うことで、来館者への適切な対応については市民へのサービス向上へ繋げることができた。

また、新型コロナウイルス感染対策においても、各常駐委託業者と綿密な連携をとることで、市民が安全・安心に利用できる施設運営を実現し、管理水準の向上を図ることができた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 業務仕様書に基づき、安全な施設運営を行うために必要な専門性を有する人材の確保、及び適正な業務履行の徹底を要請した。

委託者側、受託者側双方に責任者を置き、常に業務の実施状況を共有した他、受託者より提出を受けた業務完了報告書による履行確認を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 (R2.8.4)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用状況について <ul style="list-style-type: none"> ①令和元年度の施設の利用状況について ②令和2年度の施設の利用状況について ・新型コロナウイルス感染症対策について <ul style="list-style-type: none"> ①館内の新型コロナウイルス感染症対策について ②テストコンサートについて ③ライトアップの取組について ・札幌市民交流プラザ施設利用規則について
第2回 (R2.12.4)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用状況について <ul style="list-style-type: none"> ①令和2年度の施設の利用状況について ②施設利用者向け・来館者向けアンケートの結果について ・新型コロナウイルス感染症対策について <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催</p>
第3回 (R3.3.16)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の施設運営の概況について <ul style="list-style-type: none"> ①施設の利用状況について(R2.4～R3.1) ②新型コロナウイルス感染拡大に伴う市民交流プラザの対応 ③HTBとの連携協定及び映像配信事業について ・施設利用に伴うアンケートの集計結果について
<p><協議会メンバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会： 中央地区町内会連合会総務部長 ・利用者： 音楽事務所代表 ・有識者： 大学教授 ・行政： 札幌市市民文化局文化部長 札幌市教育委員会 図書・情報館長 ・指定管理者： 市民交流プラザ館長 事業推進担当部長 	

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催の見送りや書面開催となる回もあったものの、施設の運営状況や新型コロナウイルスの感染対策について、有識者等の外部委員より専門的見地から助言を得たり、有益な情報を共有したりすることで、コロナ禍における施設の適切な運営や安全性の向上に繋げることができた。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとに区分した経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。
- ▼ 現金等の取り扱いについては、現金取扱要綱を策定し、分任出納員として任命された職員による厳正な管理を行い、財団の内部監査や市による業務検査などで定期的な確認作業を行った。
- ▼ 現預金の入出金については、複数の職員による相互確認を実施し、不適切な処理が行われないようチェックした。

複数人体制での現預金の取扱や内部監査等の実施により相互牽制を行うことで、適正かつ透明性の高い資金管理を行うことができた。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 要望・苦情は発生次第速やかに対応を検討し、苦情担当部署及び館長とも共有した上で、対応を行った。
また、利用者・来館者から寄せられた要望・苦情については関係する常駐委託業者とも情報共有を行い、利用サービスの向上に繋げた。
- ▼ ホームページにお問い合わせフォームを設け、問い合わせや要望・苦情が寄せられた際には、図書・情報館やその他の関係部署を交え対応を検討し、電子メール等で迅速な回答を行うとともに、今後の利用サービスの向上に繋げた。
- ▼ 市の関わりが必要と考えられる要望・苦情については迅速に市へ情報提供を行った。

要望・苦情の対応事例を速やかに内部共有することで、管理運営上の課題の発見や運営水準の向上に反映させる契機とすることができた。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。

- ・ 管理業務に関する諸規程
- ・ 文書管理簿
- ・ 各年度の事業計画及び事業報告書
- ・ 収支予算・決算に関する帳簿
- ・ 金銭出納に関する帳簿
- ・ 物品の受払いに関する帳簿
- ・ 各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類

▼ セルフモニタリングについては、来館者、利用者、主催事業の参加者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、半年ごとに業務検査や財務検査を行い、業務に関する自己チェックを実施した。

▼ 札幌市への事業報告や事業評価等については、協定の定めに応じて提出をした。

業務の実施状況や利用者等の意見を適切に記録・保管することで、照会等への対応が円滑になるほか、サービス水準の維持、向上のために活用することができた。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上		A B C D
	<p>▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しをおこない、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアソフトにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>▼ 毎月の給与の計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務部署を通じ、社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>▼ 当財団衛生委員会要綱に準じ衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康維持、職場環境の向上に努めている。</p> <p>▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の相談を含めて個別相談にも応じる体制を採っている。</p> <p>▼ 労働環境を向上させるため、年5日以上の子次有給休暇の取得徹底や、業務の見直しなどによる時間外勤務の削減に努めた。</p> <p>▼ 新型コロナウイルス感染対策の一環として、公共交通機関による出勤時の混雑回避のための時差出勤や、職員の接触機会削減のための在宅勤務を実施した。</p>	<p>労働関係法令遵守のため、管理職を中心に長時間労働に関する各職員の状況把握に努め、業務効率化や業務分担の見直しなどにより、時間外勤務の削減を図ることができた。また、年次有給休暇についても全職員が5日以上取得できた。</p> <p>衛生委員会では、事業部内の労働環境に関する意見を聴取し、執務室内の観葉植物の導入、室内の温湿度状況の改善など、労働環境の維持増進につなげることができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染対策においては、時差出勤・在宅勤務を行うことで、職員の健康と施設の安全確保に最大限留意した勤務体制をとることができた。</p>	<p>36協定の適正な締結、衛生委員会の設置、産業医や顧問弁護士の導入を行うだけではなく、時間外勤務の抑制や年次休暇の取得促進が実現する等、それら制度・期間が実効的に機能していると認められる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として、時差出勤や在宅勤務を実施するなど、職員の健康に配慮した労働環境の整備を行った点は評価できる。</p> <p>業務の性質上、時期による業務量の差は生じるものの、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、さまざまな取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)		A B C D

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

▼ プラザ内の各施設(劇場、センター、諸貸室)において、計画的な清掃・警備を行い、美化・安全確保に努めた。また、備付備品や貸出備品についても、定期的に点検を行い、常に利用者が最良の状態で使用できるよう維持・管理を行った。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、貸出施設や備品、利用者用ロッカー、エレベーター内操作盤等の消毒や換気には一層配慮して対応するとともに、託児室内は、抗ウイルスコーティング加工を施し、施設の貸し出しに備えた。

▼施設設備については、日常点検をはじめ、不具合が発生した際は早期発見・対応が可能なように設備保守の常駐委託事業者と密に連携を図った。

▼施設への搬出入用駐車場については、運用マニュアルを作成して管理運営を行い、警備員との連絡を密にして駐車場の利用者が安全、かつ円滑に駐車できるように努めた。

▽ 防災

職員および委託事業者の防災意識の向上のため、9月には劇場公演中の火災発生を想定し、グループ毎に来場者の避難誘導についてフローを確認するとともに、防災設備点検事業者による防火シャッターに関するレクチャーを受講した。また、3月には、地震発生を想定した訓練を実施し、各職員の役割分担や緊急時のセキュリティ扉の状況を踏まえつつ避難経路の確認を行なった。

防災マニュアルをもとに災害発生時の職員の役割や避難誘導経路等を確認し、有事の際の対応について備えることができた。

(4)事業の計画・実施業務	▽ 札幌文化芸術劇場に関する事業		<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部の事業は中止となったが、多様な事業が計画・実施されている。 創造事業では、「hitaruオペラプロジェクト」のプレ公演として「蝶々夫人」を企画し、今後本格始動する北海道発のオペラ創造事業に向けた計画を確実に進めている。 鑑賞事業では、新国立劇場バレエ団と共同制作し、本格的な舞台芸術を企画・実施した。 交流事業では、「PLAZA FESTIVAL」を実施し、劇場、図書・情報館、クリエイティブスタジオなど、施設全体を有効活用し、様々なジャンルの文化芸術の創造と鑑賞機会の提供を実現した。 「hitaruのひとつき」は、料金を低価格に設定することで、実演芸術鑑賞の裾野拡大に努めた。 以上により、市民へ多様な文化芸術に触れる機会を提供している点は高く評価でき、本市の要求水準を超える事業を行っている。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部の事業は中止となったが、多様な事業が計画・実施されている。 創造事業では、「hitaruオペラプロジェクト」のプレ公演として「蝶々夫人」を企画し、今後本格始動する北海道発のオペラ創造事業に向けた計画を確実に進めている。 鑑賞事業では、新国立劇場バレエ団と共同制作し、本格的な舞台芸術を企画・実施した。 交流事業では、「PLAZA FESTIVAL」を実施し、劇場、図書・情報館、クリエイティブスタジオなど、施設全体を有効活用し、様々なジャンルの文化芸術の創造と鑑賞機会の提供を実現した。 「hitaruのひとつき」は、料金を低価格に設定することで、実演芸術鑑賞の裾野拡大に努めた。 以上により、市民へ多様な文化芸術に触れる機会を提供している点は高く評価でき、本市の要求水準を超える事業を行っている。			
A	B	C	D								
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部の事業は中止となったが、多様な事業が計画・実施されている。 創造事業では、「hitaruオペラプロジェクト」のプレ公演として「蝶々夫人」を企画し、今後本格始動する北海道発のオペラ創造事業に向けた計画を確実に進めている。 鑑賞事業では、新国立劇場バレエ団と共同制作し、本格的な舞台芸術を企画・実施した。 交流事業では、「PLAZA FESTIVAL」を実施し、劇場、図書・情報館、クリエイティブスタジオなど、施設全体を有効活用し、様々なジャンルの文化芸術の創造と鑑賞機会の提供を実現した。 「hitaruのひとつき」は、料金を低価格に設定することで、実演芸術鑑賞の裾野拡大に努めた。 以上により、市民へ多様な文化芸術に触れる機会を提供している点は高く評価でき、本市の要求水準を超える事業を行っている。											
	<p>▼ 創造事業</p> <p>hitaruを「創造の場」として札幌発の実演芸術公演を展開し、市民に質の高い文化芸術に触れる機会を提供した。道内初の多面舞台を備えた劇場機能を活用し、令和4年度に本格始動する北海道発のオペラ創造事業「hitaruオペラプロジェクト」のプレ公演として「蝶々夫人」を実施した。</p> <p>○ hitaruオペラプロジェクト プレ公演「蝶々夫人」 (北海道二期会との共催事業)</p> <p>《関連事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演者オーディション ・マダム・バタフライの素顔 ～原作と音楽から考えるその現代性～ ・公演チケット購入者限定「蝶々夫人」リハーサル見学 ・有料アーカイブ配信 <p>▼ 鑑賞事業</p> <p>多面舞台と最新の舞台機能を生かし、世界水準のオペラ、バレエなど本格的な舞台芸術による「鑑賞の場」を多彩な内容で市民に提供した。また、親しみやすい内容の公演を低廉な入場料で開催し、幅広い層の市民に実演芸術の魅力を伝えた。</p> <p>○ ヨハン・シュトラウスⅡ世 オペレッタ「こうもり」(2公演)</p> <p>○ 新国立劇場バレエ団「眠れる森の美女」(2公演)</p> <p>《関連事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助演オーディション ・バレエダンサーが語る！本当は深いバレエと表現のおはなし(中止※) ・クラスレッスン見学会 <p>○ hitaru のひとつき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宇宙への招待」(中止※) ・「ANUNA 神秘のケルティック・コーラス」(中止※) ・「明和電機 ナンセンスマシーンコンサート」 <p>《関連事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明和電機 キャラクター楽器の世界」展 ・「華麗なるディーヴァの競演」 	<p>「蝶々夫人」では地元アーティストやスタッフが力を結集し、hitaruの舞台機構を存分に活用した本格的なグランドオペラを実施。市民に鑑賞機会を提供するとともに、地元音楽家やスタッフの育成にも寄与した。オペラへの理解や興味を深めてもらえるよう、札幌大谷大学教授によるレクチャーやリハーサル見学会など、普及啓発にかかる関連事業も併せて実施した。また、北海道テレビ放送株式会社と連携し、hitaru初の試みとなる有料アーカイブ配信を行い、コロナ禍における芸術文化の鑑賞機会を新たに創出した。</p> <p>新国立劇場制作によるオペレッタ「こうもり」では、国内外のトップクラスの出演者による華やかな舞台の鑑賞機会を市民に提供した。同じく新国立劇場バレエ団による「眠れる森の美女」では、チャイコフスキーの3大バレエ公演シリーズの締めくくりとなる豪華絢爛なステージを上演したほか、オーディションにより選出された助演が新国立劇場バレエ団の指導を受け舞台に参加するなど、人材育成にも取り組んだ。</p>									

○共催事業の誘致

これまで札幌での開催が少なかった魅力ある大規模公演等の誘致に向けた取り組みを進めた。

・モーリス・ベジャール・バレエ団「バレエ・フォー・ライフ」

(中止 ※)

・第二回さっぽろ落語まつり

(新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年5月28日(金)・29日(土)・30日(日)に延期)

・ミュージカル「ミス・サイゴン」

(中止 ※)

・新春 落語名人会 in hitaru

※新型コロナウイルスの影響により中止

低料金で気軽に実演芸術に触れてもらうことを目的とした「hitaru のひととき」シリーズでは、4公演中2公演が新型コロナウイルスの影響により中止になったものの、世界各地でユニークなオリジナル楽器による公演を行う芸術ユニット「明和電機」のコンサート、クラシックとジャズ、2人のトッププレイヤーが初共演を果たした「華麗なるディーヴァの競演」など、話題性の高い多様な舞台公演を開催し、幅広い層の市民が劇場に足を運んだ。

また、共催事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため計画通りに公演を開催できない状況ではあったが、年度途中に急遽企画した「新春 落語名人会 in hitaru」はコロナ禍であっても好評であった。

▼ 普及・育成事業

先進の舞台芸術を広く市民に紹介するとともに、舞台芸術活動の将来を担う世代の育成を目的に、多彩な芸術文化作品の提供と、魅力的で芸術性の高い参加型事業を展開した。

○ チェルフィッチュの〈映像演劇〉「風景、世界、アクション、すべてこの部屋の外側の出来事」

○ 青少年向けバレエ鑑賞事業(配信)

○ クリエイティブスタジオ活用事業

・Noism Company Niigata 実験舞踊vol.2「春の祭典」／「FratresⅢ」(中止)

・シネマシリーズ 映画へと導く映画(1黒沢清、2入江悠、3今泉力哉)

・地点「だれか、来る」

・All Sapporo Professional Actors Selection Vol.2「北緯43° のリア」

・Creative Opera Mix Vol.2 LOVE & TRAGEDY
《関連事業》

・有料アーカイブ配信

○ 札幌大谷大学・札幌文化芸術劇場 hitaru連携事業
・アートプログラム2020 第1回 バレエ「眠れる森の美女」見どころ・聴きどころ

・アートプログラム2020 第2回オペレッタ「こうもり」見どころ・聴きどころ

○ 「箱館戦争」シリーズ三部作一挙公演プロジェクト
北海道教育大学・実験劇場 第10回オペラ公演 マドリガーレ・オペラ「箱館戦争」三部作

青少年が人間性豊かな心を育むことを目的として、国内トップクラスの東京バレエ団の公演に市内中学2年生を無料招待する「青少年向けバレエ鑑賞事業」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止を余儀なくされたが、過去のhitaru公演の映像をもとに教材動画を作成し、配信事業へ形を変えて実施した。

「クリエイティブスタジオ活用事業」では、クリエイティブスタジオを会場に、国内外でも注目度の高い「地点」による演劇「だれか、来る」、話題の映画監督が影響を受けた映画を紹介する「映画へと導く映画」、北海道内外で活躍する俳優やスタッフらによるシェイクスピア原作「北緯43°のリア」、有名なオペラ作品を様々な現代的アレンジで演奏し、ダンスを合わせたhitaru独自の創造事業「Creative Opera Mix」等、多彩なジャンルの実演芸術作品を実施し、市民の多様なニーズに応えるとともに、同会場の柔軟性をアピールした。

大学など教育機関との連携事業では、hitaruで実施するオペラ・バレエの内容をわかりやすく解説するレクチャーを札幌大谷大学と連携して企画し、本公演への理解や興味を深める機会を提供した。また、舞台芸術やアートマネジメントを学ぶ学生のインターンシップを受け入れ、次世代の人材育成に努めた。

▼交流事業

札幌文化芸術劇場 hitaru、クリエイティブスタジオ、札幌文化芸術交流センターSCARTS、札幌市図書・情報館など、さまざまなジャンルの事業展開が可能な市民交流プラザの特性を活かし、多様な市民に参加・交流の場を提供して、多くの市民が文化芸術に触れることで施設のにぎわい創出につながる事業を実施した。

○PLAZA FESTIVAL 2020

- ・札幌爆音映画祭
- ・HTB市民交流プラザ劇場
- ・第2マルバ会館 ○○な上映会
- ・細井美裕サウンドインスタレーション“Lenna”
- ・マルシェ・ドウ・グルニエ×プラザ・マルシェ

札幌市民交流プラザのオープン2周年に際し、全館を用いた交流事業「PLAZA FESTIVAL 2020」を開催した。劇場ではサッポロ・シティ・ジャズ、図書・情報館では、公演関連の展示、クリエイティブスタジオでは「札幌爆音映画祭」のほか、北海道テレビ放送株式会社と連携し選りすぐりのドキュメンタリーの上映及び番組ディレクターによるトークを実施した。また、SCARTSモールでは音に包まれているような体験ができるサウンドインスタレーションの展示が行われたほか、MORIHICO.プロデュースによるマルシェを開催した。新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、市民が様々な文化芸術に触れることができる場を提供した。

▽ 札幌文化芸術交流センターに関する事業

▼ 文化芸術の普及・発信、にぎわい創出事業

誰もが気軽に文化芸術に触れられる場や機会を創出し、都心部ににぎわいを生み出すような事業を展開した。

また、地元アーティストやアート以外の他分野との連携などにより、札幌ならではの特徴的な事業を構築し、札幌の魅力とSCARTSの認知度を高めた。

○ ことばのいばしょ

- ・参加型パフォーマンス「環RYO-Fine Game」
- ・折笠良アーティストトーク
- ・小森はるか＋瀬尾夏美
アーティストトーク&ミニワークショップ
- ・三角みづ紀×吉田慎司「言葉と版画、本の森」
トーク(YouTube配信)
- ・SCARTSアートコミュニケーターによる鑑賞サ

ポート

○ SCARTSステージシリーズ

- ・vol.001 「日本の四季に耳を澄ませて」
- ・vol.002 「人形劇の惑星」
- ・vol.003 「繋がる作曲家たち～西洋の風を運んで～」
- ・vol.004 「Remember us」

○ チェルフィッチュの映像演劇

「風景、世界、アクシデント、すべてこの部屋の外側の出来事」

○ ++A&T SCARTS ART & TECHNOLOGY

Project

(プラプラット)

- ・ ++A&T 03 谷口暁彦×SCARTS×札幌の中高生たち「バーチャル避難訓練」ワークショップ①
- ・ ++A&T 03 谷口暁彦×SCARTS×札幌の中高生たち「バーチャル避難訓練」展示
- ・ ++A&T 03 谷口暁彦×SCARTS×札幌の中高生たち「バーチャル避難訓練」ワークショップ②
- ・ ++A&T 04 CoSTEP×SCARTS×札幌の高校生たち「バイオの大きさ／未来の物語」ワークショップ
- ・ ++A&T 04 CoSTEP×SCARTS×札幌の高校生たち「バイオの大きさ／未来の物語」ワークショップ成果展

ことばのいばしょでは、地元アーティストの活用や、詩人・歌人と版画家のコラボレーションといった他分野の作家同士の連携、SCARTSステージシリーズでは大学と連携協定を結び、次世代を担う人材育成に寄与するコンサートの実施、++A&Tでは中高生と作家がワークショップを行うなど、各事業でさまざまな文化芸術活動をつなげていく役割を担った。

また、連携事業ではMarché de GRENIER(マルシェ・ドゥ・グルニエ)など、普段文化芸術活動に関わりの少ない市民にも参加しやすいイベントを実施し、にぎわいを創出した。新型コロナウイルスの影響により道外や国外のアーティストとの連携が困難であったものの、その中でも、海外の著名な映画監督に映像制作を依頼するなど、札幌の魅力を一層高め、SCARTSの認知度の向上に寄与する事業を構築することができた。

- 連携事業
・第49回札幌文化団体協議会フェスティバル 展示部門
- ・NoMaps2020
・北大コーステップ「オープンウィーク」札幌で出会う
科学技術コミュニケーション
・さっぽろアートステージ「キッズアートフェス」
・アートボランティアウィーク@SCARTS
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
- ・Marché de GRENIER(マルシェ・ドゥ・グルニエ)
・札幌国際芸術祭2020特別編展示
「SIAF2020ドキュメント」
・パッケージデザインコンテスト北海道2020
・Family ArtDay 2021
親子で楽しむアートワークショップ
- SCARTSインフォメーションカウンター
- 文化芸術に関する情報発信
- 西2丁目地下歩道映像制作及びトークイベント
- PLAZA FESTIVAL 2020「第2マルバ会館○○な
上映会」〈再掲〉
- PLAZA FESTIVAL 2020「細井美裕サウンドイン
スタレーション“Lenna”」〈再掲〉
- PLAZA FESTIVAL 2020「MORIHICO. Marché de
GRENIER(マルシェ・ドゥ・グルニエ)」×プラザマルシェ
〈再掲〉

▼ 文化芸術活動支援事業

市民やアーティスト等の活動活性化やキャリアアップなどを念頭に、文化芸術情報を収集・発信できる場を提供するとともに、文化芸術に関する悩みなどの相談も受け付けた。

○ 対面相談サービス

○ SCARTSオープンDAY

・「ライブパフォーマンススタイル」の例

－SCARTS活用方法見学会－

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

・「ものづくりのレシピ」－SCARTS活用方法見学会－

○ SCARTSレクチャーシリーズ

・SCARTSレクチャーシリーズ for Artist vol.3

「アートが無事に届けたい！アーティストのための美術梱包スキル講習」

○ アートコミュニケーション事業

○ 公募企画事業

・CE:Meets ライブクラフト

～ダンボールハウスバトル～

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため次年度に延期。

・三原順の世界展～生涯と復活の軌跡～

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため次年度に延期。

・中島洋 市民参加型アートプロジェクト

「記憶のミライ」

・祝祭・モーツァルト in 北海道2021

▼ 文化芸術に関する調査研究事業

文化芸術活動を発展させるうえで欠かせない、国や他都市の動向や先進的な文化芸術活動などに関する基礎的な調査や研究を行った。

○ 調査研究

○ SCARTSレポート

札幌における文化芸術に関わる情報を収集し、インフォメーションカウンターやウェブを通じて広く市民に発信した。対面相談サービスでは、コロナ禍で活動自粛を余儀なくされたアーティストや市民に助成金の情報を提供するなど、彼らの活動支援に尽力した。また、SCARTSレクチャーシリーズでは、日本通運株式会社札幌支店から講師を招き、美術梱包スキル講習を行い、実践的な知識を得ることができたと参加者からの高い満足度を得ることができた。

調査研究についてはアーカイブをテーマに調査を行い、今後市民に成果を公表していくうえでの基礎となるデータを集めることができた。SCARTSレポートは、開館から1年6カ月のSCARTSの足跡を記録したもので、内容の充実度とデザイン性が高く、各方面から高い評価を得た。

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等	R元年度実績 R2年度計画 R2年度実績			新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の貸出を停止した期間があったほか、施設利用の取りやめが相次ぎ、令和元年度までの高い稼働率を維持することができなかった。また、貸室において利用人数の制限が設けられたことにより、利用人数についても激減することとなった。 利用促進の取組として、利用者アンケートで特に要望が多かった、申請書の押印省略について、令和2年11月より押印を廃止し、利用者の利便性向上を図った。	A	B	C	D
劇場	件数(件)	226	260	150	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の貸出を停止した期間があったほか、施設利用の取りやめが相次ぎ、令和元年度までの高い稼働率を維持することができなかった。また、貸室において利用人数の制限が設けられたことにより、利用人数についても激減することとなった。 利用促進の取組として、利用者アンケートで特に要望が多かった、申請書の押印省略について、令和2年11月より押印を廃止し、利用者の利便性向上を図った。	令和元年度までの高い稼働率を維持することはできなかったが、稼働率の減少は新型コロナウイルスの影響による施設の貸出停止期間、利用人数制限があったことが原因と判断される。 アンケートを踏まえ、利用者の要望に応える取り組みを行っており、感染症という厳しい状況下においても、継続して利用者の利便性向上に努めている。 以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
	人数(人)	352,325	-	65,665					
	稼働率(%)	72.6%	80%	58.4%					
クリエイティブスタジオ	件数(件)	294	267	158					
	人数(人)	34,031	-	12,043					
	稼働率(%)	82.4%	75%	53.5%					
練習室等	件数(件)	3,331	2616	2,396					
	人数(人)	36,407	-	16,106					
	稼働率(%)	63.1%	60%	51.8%					
センター	件数(件)	2,587	2192	1,601					
	人数(人)	315,427	-	54,842					
	稼働率(%)	80.9%	75%	65.4%					
		※人数に図書館BDSは含まず							
	▽ 不承認0件、取消し536件、減免1531件、還付482件								
	▽ 利用促進の取組								
	▼一斉受付実施の告知 ホームページにて、次回の一斉受付の告知を毎月行った。								
	▼クリエイティブスタジオ見学会の告知と実施 舞台技術者同席のもと、年間4回(うち1回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)の見学会を実施し、のべ81人の参加があった。								
	▼練習室・控室の利用促進を図るため、昨年度に引き続きPRチラシを作成し、市内公共施設や創成スクエア管理組合等に配布を依頼し、PRに努めた。								
	▼利用者からのご要望の改善 利用者アンケートに基づき、利用者からのご要望のあった点を共有するとともに、改善に向けて検討を行った。								

			A B C D
(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼ 広報</p> <p>① 事業広報との連携強化 公演・イベントの周知、チケット販売促進や、施設入館者数の目標達成を目指し、情報誌等の印刷物やホームページ、SNS等の多様な媒体を活用して、札幌市民交流プラザの機能や事業の広報を積極的に行った。</p> <p>(1) 各種パブリシティの活用及びメディア対応 プレスリリースやメディア対応等を積極的に行い、新聞、雑誌、テレビ、ウェブメディア等の各種媒体を活用した広報活動を展開し、事業周知とチケットセールスの促進を図った。</p> <p>(2) 地下鉄パンフレット広告 主要駅の地下鉄フリーパンフレットコーナーにて、情報誌「WAVE TIMES」や「PLAS」、主催公演チラシ等を配架した。</p> <p>(3) 協賛広告枠の活用 札幌文化芸術劇場hitaruオフィシャルスポンサー企業の広告協賛等を活用し、地下鉄大通駅コンコース及び地下鉄オーロラタウン、丘珠空港、市内大型スーパーマーケット、路線バス車内等において動画の放映やチラシの配架、ポスター広告の掲示等を行った。</p> <p>② 広報印刷物の制作</p> <p>(1) 情報誌「WAVE TIMES」 札幌市民交流プラザの情報誌「WAVE TIMES」を4回(5月、8月、12月、2月)発行し、区役所等の市内公共施設や関係団体へ送付したほか、公演・イベント会場等でも広く配布した。</p> <p>(2) イベントスケジュール冊子「PLAS」 札幌市民交流プラザを構成する3施設の公演・イベントを掲載するスケジュール冊子「PLAS」を6回(5月、7月、9月、11月、1月、3月の各月20日)発行し、区役所等の市内公共施設や関係団体へ配布した。</p> <p>(3) 「創成おさんぽMAP」 近隣地域のにぎわいを醸成するため、札幌市民交流プラザメンバーズ会員向け特典提供店を紹介する地図形式の冊子をB3判ジャバラ折B6仕上げで作成し、メンバーズ(DM会員)に送付したほか、協力店舗や札幌市民交流プラザ館内各所で配架した。</p> <p>(4) プラザフェスティバル関係 施設開館2周年記念で行われたプラザフェスティバル開催に際し、館内で行われる事業を紹介するリーフレットを作成した。</p> <p>③ ホームページ</p> <p>(1) ホームページの改善・SNSの活用 ホームページを通じて、主催事業や貸館公演などのイベント情報を随時発信し、広く札幌市民交流プラザの周知を図るとともに、英語ページも作成し、外国人向けに情報発信を行った。ウェブアクセシビリティへの対応にも留意し、JISX8341-3:2016の適合レベルAA準拠を維持した。 また、Twitter、FacebookといったSNSも活用し、即時性のある情報を発信した。 ・ホームページアクセス数 令和2年度:664,937件 (参考)令和元年度:1,647,311件</p> <p>(2) プラザフェスティバル特設ページ 施設開館2周年記念で行われた「プラザフェスティバル」に際し、期間限定の特設ページを作成した。</p>	<p>「WAVE TIMES」「PLAS」の発行、ホームページのリニューアルやSNSの活用、各種パブリシティでの広報展開により、プラザ内で行われる主催事業等の告知を行いチケット販売促進につなげた。</p>	<p>公式ホームページやSNS、情報誌での情報発信を行い、広くイベントや施設について広報に努めている。 メンバーズの会員やスポンサーも数多く集めており、本市の要求水準を満たしているものと認められる。</p>

▼利用促進

①施設利用に関するチラシの発行

札幌文化芸術劇場hitaru及び札幌文化芸術交流センター SCARTS諸室の貸館利用促進に向け、地元興行主との情報交換を密にするほか、「ご存じですか？プラザの貸室使い方いろいろ」を作成・配布して会議や練習での利用を促した。

②会員制度

(1)会員制度の募集及び運営

開館前から引き続き会員制度「札幌市民交流プラザメンバーズ」を募集。令和3年3月31日までにWEB会員27,979人、DM会員877人、計28,856人の会員を集めた。

(2)会員特典

・メールマガジン配信(WEB会員向け、原則1ヶ月に2回)

・ダイレクトメール送付(DM会員向け、原則奇数月)

・hitaru主催公演のチケット先行発売

・プラザ内カフェ・レストランでの優待

・近隣のホテル・飲食店等での各種優待

・施設見学会の企画(新型コロナウイルス感染拡大防止のため不開催)

・避難訓練コンサートの企画(新型コロナウイルス感染拡大防止のため不開催)

・リハーサル見学の実施(令和3年2月19日(金))

「蝶々夫人」)

③協賛制度の募集及び運営

札幌文化芸術劇場hitaruの主催共催事業の充実を目的とする「hitaruオフィシャルスポンサー」制度を運営。

令和2年度のスポンサーとして、法人108社、個人61人、計169件(1億207万円)の協賛を獲得した。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため全体的に施設利用が減少している状況があるが、利用促進チラシの作成・配布や会員向け特典を充実させるなど、安全な施設利用の促進に取り組んだ。

2 自主事業その他			A	B	C	D
▽ 自主事業 施設の賑わいの創出とともに寛ぎの空間を提供することを目的に、カフェ「MORIHICO.芸術劇場」及びレストラン「DAFNE」を営業。令和2年度よりコーヒーチケットの販売をはじめとするリピーターを定着させるための取り組みを行ったほか、ランチメニューやアフタヌーンティーメニューに加え、当日の劇場公演の来場者を対象に特典を設けるなど施設全体として来館者への高いホスピタリティを念頭に運営を行なった。		来館者のニーズに配慮しつつ、施設との連携を図りながら営業を行うことができた。今後も、来館者の観点から、創意工夫をこらした企画を実施し、施設の賑わいの創出に努めたい。				カフェ・レストランについては一定の集客により、プラザの賑わい創出に貢献しているほか、自主事業に係る経理も適切に行われている。コーヒーチケットの販売など、リピーター確保に向けた取組も見られ、経営努力が認められた。
▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ▼ 市内企業等の活用 施設の管理運営に必要な再委託業務について、概ね札幌市内に事業所を有する企業に発注した。		再委託業務について市内企業への発注を行うなど、市内企業の活用に努めた。				その他、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。
▼ 福祉施策への配慮 イベントの広報印刷物の封入作業を、近隣の福祉施設に発注した。 また、設置している自動販売機のうち1台を、札幌市内の社会福祉団体に依頼した。		また、福祉施設・団体への発注を行い、福祉施策の推進に努めた				
3 利用者の満足度			A	B	C	D
▽ 利用者アンケートの結果		利用者アンケートの中で要望の多かった、申請書の押印廃止について、令和2年11月より様式を改定し、押印を不要とした。 コロナ禍以降は受付カウンターにアクリル板の設置、貸室の鍵や貸出物品の都度消毒等、感染防止対策に努め、利用者が安心して利用できるよう努めた。				「総合満足度」及び「職員の接遇に関する満足度」は、本市の要求水準である80%を大きく超えている。アンケート回収件数2,965件は、本市の要求水準10,000件を下回っているものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響と考えられる。アンケートで寄せられた意見に対する改善も行っており、本市の要求水準を超えている。
実施方法	施設を利用する主催者および主催事業の来場者へアンケート用紙を配布するほか、館内にアンケート台を設置。施設・設備の使い勝手の良さや、職員対応等に対する意見・要望の把握に努めた。					
結果概要	施設利用者の施設に対する総合的な満足度は94%、職員対応の満足度は98%であった(「満足」「おおむね満足」「普通」合計)。98%の利用者が「また利用したい」と回答した。					
利用者からの意見・要望とそ の対応	・コロナ禍だったが、申込から利用まで職員の丁寧な対応がよかった。 ・いつも綺麗な施設で心地よい。 ・検温計の貸出があつて助かった(イベント利用者) ・電話で申込ができるとうれしい ・コンセントの貸出希望→貸出用の延長コードを手配					

4 収支状況

▽ 収支 (千円)				新型コロナウイルスの影響によって利用料金収益は大幅に減少したが、協賛金や助成金の獲得といった積極的な収益確保に努めることで、利用料金以外の収入減を最小限に止めることができた。 支出についても、施設管理・主催事業の両面で経費削減に努めた結果、収益の減少幅を補うことができた。	A	B	C	D
項目	R2年度計画	R2年度決算	差(決算-計画)					
収入	1,502,660	1,387,919	▲ 114,741	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用料金収入が計画を下回ったものの、協賛金や助成金の獲得など、積極的な収益確保を図ったことで、収支の悪化を最小限に抑えた点は評価できる。支出の削減に継続して取り組んでおり、今後も、安定的な施設運営に努めてもらいたい。	適	不	適	不
指定管理業務収入	1,475,511	1,367,665	▲ 107,846					
指定管理費	1,039,388	1,088,567	49,179					
利用料金	230,741	91,909	▲ 138,832					
その他	205,382	187,189	▲ 18,193					
自主事業収入	27,149	20,254	▲ 6,895					
支出	1,502,660	1,327,686	▲ 174,974					
指定管理業務支出	1,477,374	1,305,002	▲ 172,372					
自主事業支出	25,286	22,684	▲ 2,602					
収入-支出	0	60,233	60,233					
利益還元			0					
法人税等			0					
純利益	0	60,233	60,233					
▽ 説明								
<p>▼ 利用料金収入は、新型コロナウイルスの影響により当初計画より大幅に減少したが、協賛金や助成金の獲得に努め、収入全体の減少幅の抑制に努めた。</p> <p>▼ 支出については、主催事業の早期中止・延期決定によって経費の発生を抑えたほか、光熱水費をはじめとする管理費用の削減努力もあり、計画時より減少した。</p> <p>▼ 上記の費用削減に努めつつ、サービスアップの一環として劇場の一部座席の嵩上げ工事を行い、より快適で充実した鑑賞環境となるよう整備を図った。</p>								

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持 当団体の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。		適	不
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対処した。 ▼ 情報公開請求はなかった。 ▼ オンブズマンについては、案件は生じたが適切に対応した。 ▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。		適	不

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>【管理運営事業】 第2期指定管理期間の初年度として、運営水準の向上を目指し、様々な取組を行った。特に、コロナ禍で貸館や主催事業の中止・延期が相次ぎ、施設利用が減少したことを契機に、職員のスキルアップを目的とした各種研修を積極的に行い、組織体制の強化に注力することができた。</p> <p>また、事業課毎の委員会を統合し、今年度より発足した「事業専門委員会」についても、オンラインでの開催となったものの、市民交流プラザの各施設間での連携を強化するための有意義な意見交換を行うことができた。</p> <p>貸館事業においては、新型コロナウイルスの影響により、施設の貸出停止や収容人数の制限等が生じ、利用率・入場者数ともに減少することとなった。しかし、利用施設毎のガイドラインの策定や、検温装置・施設各所への消毒液の設置等、感染対策を徹底することで、安全性を確保した施設利用のための基盤を整備することができた。また、感染対策への取組をホームページや広報誌等で紹介し、市民が安心して来館できる施設であることをアピールすることができた。</p> <p>【主催事業】 ・札幌文化芸術劇場 多面舞台と最新の舞台機能を生かした質の高い舞台芸術に親しむ場を市民に提供し、文化芸術に関心をもっていたくよう様々な事業を展開することができた。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により中止せざるを得ない事業もあったが、民間との連携による有料アーカイブ配信や、無料で動画配信等、コロナ禍における新しい文化芸術発信の取り組みを推進した。</p> <p>また、来場者や出演者がコロナ禍においても安心して劇場に足を運べるよう、全国公立文化施設協会、クラシック音楽公演運営推進協議会、緊急事態舞台芸術ネットワークの各団体によるガイドラインを参照するとともに、北海道・札幌市の実施基準を遵守した内容を実施。地元アートディレクターとの協働によるデザイン性の高い館内表示や、様々な予防策を盛り込んだテストコンサートの実施等、施設独自の感染対策についても実施した。</p> <p>新型コロナウイルスの影響を見極めつつ積極的に文化芸術事業を推進した結果、多くの良い反響を得ることが出来た。主催事業の来場者満足度は94.3%(令和2年度12事業平均)と非常に高い結果となった。オペラ、バレエ、演劇、映画等、多様なジャンルの文化芸術を市民が享受する機会を継続して提供し、地元演奏家やアートシーンを担う若者の育成にも取り組むことができた。</p>	<p>【管理運営事業】 来年度以降も、新型コロナウイルス感染拡大の影響下での安定的な施設運営を目指すことを第一義としつつ、現状維持に留まることなく、運営水準のさらなる向上を目指した取組を引き続き行っていく。個々人のスキルアップや部署間での連携強化等での組織力のベースアップと併せ、時差出勤やオンライン会議の活用等、コロナ禍での新しい働き方の推進にも注力していく。</p> <p>また、貸館事業では、コロナ禍における安全・安心な施設利用を目指し、職員・利用者相互の感染対策への取組を引き続き徹底するとともに、貸館申込手続きの省力化等、利用者の利便性向上に向けた取り組みも並行して行っていく。</p> <p>【主催事業】 ・札幌文化芸術劇場 これまで札幌では実現できなかった大規模で質の高いオペラやバレエ公演などの鑑賞機会を引き続き提供していくとともに、第2期指定管理期間においては、創造型劇場の取組を更に推進するため、市内で活動する実演芸術団体、芸術系大学、アーティスト、舞台技術者と共に札幌及び北海道発の実演芸術を創造する「hitaruオペラプロジェクト」、「hitaruバレエプロジェクト」に着手する。令和4年度に第1回公演が行われる「hitaruオペラプロジェクト」については、持続可能な体制づくりも含め、関係各所と緊密に連携し準備を進めていく。</p> <p>また、クリエイティブスタジオでは、質の高い多様なジャンルの公演を継続して展開することで、市民が舞台芸術と出会う機会を創出していく。</p> <p>なお、次世代を担う青少年(中学2年生)を対象としたバレエ鑑賞事業については、豊かな感性を育む事業として、引き続き実施するとともに、大学等との連携により舞台芸術を支える様々な分野の人材育成にも注力していく。</p> <p>コロナ禍において新たに着手した配信事業についても、様々な層の市民に芸術文化に触れてもらう手段として引き続き継続していく。</p>

<p>・札幌文化芸術交流センター コロナ禍というパラダイムシフトに直面し、さまざまな事業の延期や中止が余儀なくされるなど、文化芸術が持つ意義を問われることになった。 しかし、そうした困難な状況においても、十分な感染予防策を講じながら、先進的で実験性のある展示や公演を行うなど、市民が多彩な文化芸術に触れる機会をできる限り確保し、多様な表現を受け入れる土壌を着実に育むことができた。 特に、新型コロナウイルスの影響もありコミュニケーションが不足しがちな昨今において、コミュニケーションの最も基本的な手段である「ことば」の力を見つめなおすことを目的とした「ことばのいばしょ」展では、約1か月という長期間にわたり、言葉ひとつひとつの密度、それを発した人の体温、紡がれた時間を反芻するような鑑賞体験を届けることができた。 また、相談サービスにおいては、コロナ禍で従前の活動ができなくなったアーティスト等に対し、助成金申請への助言など、当施設でなければ行えないような活動支援も行った。 閉塞感を感じざるを得ない環境下において、アートを介し、ひと・もの・ことをつなぐという使命の実現について探り続ける1年となった。</p>	<p>・札幌文化芸術交流センター 引き続き新型コロナウイルスの感染拡大も睨みながらの1年となるため、事業の柱のひとつである「にぎわい創出事業」などについては、都度情勢に応じて事業の延期や中止などを適切に判断していかなければならない。 しかし、感染症対策を万全に講じ、参加人数を絞り込むことなどにより、可能な範囲で事業の実施を検討したり、当館の有するテクニカルスタッフの知見も活かした、テクノロジーを活用したオンラインでも成り立つ表現などを模索したりすることにより、安易に事業を中止等することなく、誰もが気軽に文化芸術に触れられる機会の創出を継続していく。 また、このような社会情勢にあることから、文化芸術活動が立ち行かないなどの理由で相談が増加することも予想されるため、これを好機と捉え、相談者に寄り添った支援をきめ細かく行うなど活動支援に注力することで、当施設のファンを増やすとともに、施設の認知度を高めていく契機としていきたい。 これまでの常識が通用しにくい困難な状況下においても、札幌市で文化芸術活動したいと考える方が自由に創造性を発揮し、活躍できる環境を充実させることができるような取組に重点をおいて各事業を構築していく。</p>
--	---

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な管理運営が行われている。 施設利用者数、施設稼働率の低下やそれに伴う利用料金収入の減少など、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、厳しい状況を逆手に取り、動画配信等による新しい文化芸術の発信のあり方を推進したほか、職員のスキルアップを目的とした研修を積極的に行い、組織体制の強化を図った点は評価できる。 各主催事業では、札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、図書・情報館と連携した事業を展開したほか、中学生向けのアプローチ、低価格料金による文化芸術鑑賞の裾野拡大など、創意工夫が見受けられる。そのほか、ウェブアクセシビリティにも留意し、利用しやすいホームページの実現に努めている点も評価できる。 質の高い多様な文化芸術の鑑賞機会を創出し、本市の施策に沿った文化芸術の拠点としての役割を果たしている。</p>	<p>経営面においては、経費削減、効率的な運営に努めること。自主事業のレストランについては収益に課題を抱えていることから、令和2年度からの取組であるコーヒーチケットの販売等によるリピーター定着を図り、集客の試みに努め、経営努力を継続していただきたい。 新型コロナウイルス感染症については、引き続き国や北海道が示すガイドラインを踏まえた十分な感染症対策を講じること。感染症に不安を抱える施設利用者の声を拾い上げ、施設運営に活かし、今後も多くの方が安心して利用できる魅力ある文化芸術の創造・発信の場としての役割を担っていただきたい。</p>